

## な 生物に注意し手洗いTORCH 予防

《妊娠中の感染症》

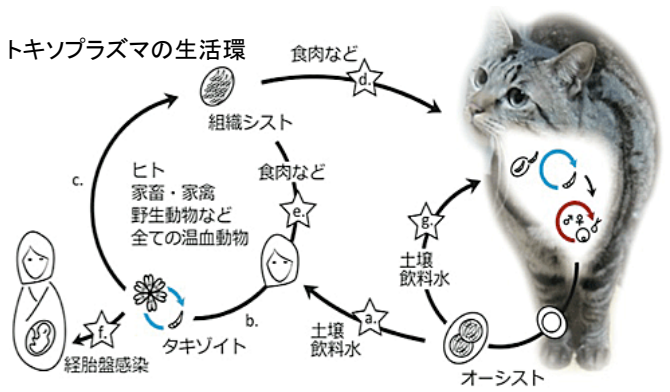
英語には、関連するいくつかの語の頭文字を組み合わせる新しい語句のようなものを作り、記憶や表記をやすくするという得意技があります。例えば、経済発展が著しい5カ国、Brazil, Russia, India, China, South Africa、を合わせてBRICSと表したりします。産科関係でもTORCH症候群というのがあり、これは妊娠中の感染によって胎児の異常を引き起こす可能性のある疾患を組み合わせたものです。Tはトキソプラズマ、Oはその他(others、B型肝炎、EBウイルスなど)、Rは風疹(rubella)、Cはサイトメガロウイルス、Hはヘルペスウイルスの頭文字です。othersが少し今イチですが、TORCHで「たいまつ」という立派な単語になっており、そういう意味ではBRICSより上等かもしれません。もっとも日本語にもビジネスマナーのハウレンソウ(報告、連絡、相談)なんかがあります。

TORCH症候群のうち、風疹は流行が起こるたびによく報道されますので、皆さんご存知だと思います。妊娠初期に感染すると児に先天性心疾患、白内障、難聴などを起こします。妊婦健診で抗体価を必ず検査しますが、陰性だった場合は、人混みを避ける、手洗いとうがい、夫へのワクチン接種、出産後のワクチン接種などが勧められます。

ヘルペスウイルスは、主に性行為によって感染し、外陰部などに激痛を伴う潰瘍を形成します。速やかに抗ウイルス剤を開始します(妊娠中でも投与可能)が、出産時に病変が消失しない場合は、帝王切開によって児への感染を防止します。

先天性のトキソプラズマやサイトメガロウイルス感染症は、決して頻度は高くないものの、それぞれ年間100人規模の発症があると推定されており、決して無視できない疾患です。共に精神発達遅滞、脳内石灰化、網膜炎など多彩な症状を呈します。トキソプラズマの虫体はネコの糞便中や生肉に存在します。ネコの糞便の処理は人に任せる、土(ネコの糞便が混じる可能性あり)に触れる時は手袋をし手洗いを十分に、生肉は決して食べないことが大切です。サイトメガロウイルスは小さな子どもが感染し、その尿や唾液に含まれます。従って、これらに触れた際は十分手洗いする、子どもと食事を共有したり口にキスしたりしないことが大切です。

以上から分かるように、妊娠中は手洗いを励行し、生ものを避けることが、TORCHのいずれの疾患を予防するためにも重要です。また妊娠中の性行為ではコンドームを使用することが、上行性の子宮内感染による流・早産の予防に重要です。



## ら 来年の今頃はもう 出産だ

《死産》

Aさんは、ある年の12月9日に、妊娠35週でお腹の女の子の赤ちゃんが子宮内で死亡してしまい、死産に至りました。臍の緒が命綱である胎児は、実際に生まれて自分で呼吸をしている新生児よりリスクの高い状態にあり、Aさんのようなケースは約600回に1回あるとされています。感染症や自己抗体など、次回にも影響する死産の原因を検索するも異常ありませんでした。

このように赤ちゃんを亡くされた方に対して、ずっと昔にオーベン(上の先生)が、「なーに、来年の今頃はもう赤ちゃんを産んでいますよ」とさりげなく言ったのが印象的でした。確かに、流・死産した場合に「2~3回生理が来たらまた妊娠していいですよ」と指導するのが一般的でして、流・死産の3ヶ月後に妊娠すれば妊娠期間が9ヶ月ですので、12ヶ月後には出産となるわけです。「そーか、来年の今頃はもう出産かー」と考えると、少しは前向きになっていただけるようです。以来私はその台詞を使わせていただいております、Aさんにも「来年の今頃はもう出産ですよ」と申し上げました。

翌年5月、Aさんは再度妊娠されました。エコーをみてびっくり、前回の借りを返すように双子の妊娠でした。12月11日、前の子の「命日」のわずか2日後に、2人の男の子を無事出産されました。まさに「来年の今頃はもう出産だ」の言葉の通りになりました。

産後、具合の悪い時期もありましたが助産師が赤ちゃんを連れてきておっぱいを吸わせるとたちまち軽快。この「赤ちゃん療法」で乗り切りました。

死産した女の子には「逸風(いつか)ちゃん」と命名する予定でした。そこで今回生まれた双子の1人は「お姉ちゃん」の風の字をもらって「楓(かえで)」くん、もう1人は読みをもらって「樹季(いつき)」くんと命名されました。今でもAさんがその写真を肌身離さないお姉ちゃんに見守られ、2人の男の子は健やかに育っています。

済生会新潟第二病院の15年間の12608例の分娩で、Aさんのような死産(妊娠22週以降)は35例でした。率にして0.28%、360例に1例となります。原因は図のように胎盤早期剥離が重要です。絨毛羊膜炎は主に22~23週の早期の死産の原因です。35例中24例の方が死産の次の妊娠で当院を受診されており、24名全員が無事元気な赤ちゃんを出産されました。死産から次回分娩までの平均期間は20.7カ月(11~48カ月)ですが、15名は18カ月以内の出産で「来年の今頃は・・・」が当てはまる時期でした。

死産の原因(済生会新潟第二病院)

